

サイエンス・コミュニケーションⅡ

1 目的

社会課題解決やデータサイエンス（情報通信技術や統計学）等について実践を通して学び、自身の文理融合型課題研究に活用できるようにする。

2 概要

4月23日「データサイエンス講座①」 群馬大学 木村俊 助教 「データサイエンス」の見方・考え方について
5月1日「ビジネスモデル講座」 高崎商科大学 前田拓生 教授 ビジネスモデルの作り方について
5月29日「アプリ作成講座」 株式会社システムクリエイターズ 井澤年宏 代表取締役 「monaca education」を用いたアプリ作成入門
6月5日「アントレプレナーシップ講座①」 株式会社リバネス 井上浄 CKO アントレプレナーシップの考え方
9月4日「DX講座」 群馬県知事戦略部 千本木祐香 様 群馬県のDX推進について
9月11日「アントレプレナーシップ講座②」 株式会社ACCELStars 宮原禎 代表取締役CEO 東京大学大学院 岸哲史 特任講師 東京大学発の睡眠ベンチャーについて
9月18日「ビジネスプラン講座」 高崎商科大学 前田拓生 教授 ビジネスアイデアの検証
9月25日「データサイエンス講座②」 群馬県立大学文学部 歸山亜紀 准教授 データサイエンスを用いた研究例の紹介
10月30日「アプリ作成演習講座」 株式会社システムクリエイターズ 井澤年宏 代表取締役 「monaca education」を用いたアプリ作成実習
3月予定「統計学発展講座」 理科×情報×数学のクロスカリキュラム 「エラーバーと統計的検定」
3月予定「文章表現講座」 国語×英語×理科のクロスカリキュラム 「パラグラフライティング」

理系的な「データサイエンス講座」、「アプリ作成講座」等と文系的な「アントレプレナーシップ講座」「ビジネスプラン講座」等を理型・文型問わず受講することで、社会課題に対して課題発見から課題解決までの一連の流れが見通せるように工夫した。9月～1月にかけては、SPⅡβの課題研究と合わせて班別活動の時間に充て、アクション（実験・開発・データサイエンス・フィールドワーク等）の時間を確保した。



<データサイエンス講座①>



<アプリ作成演習講座>

3 成果と課題

2学年で行っている課題研究（SPⅡβ）と連動して、生徒にとって文理が融合して社会課題を解決するための考え方や手法を身に付けていくことができた。

SPⅡβでの最終成果発表会には、DX（デジタルトランスフォーメーション）の意識を念頭に発表を行うことを伝えた。デジタルは必須としていないが、開発やデータサイエンス以外のアクションを選択した班も様々な面でデジタルを活用しており、課題研究を行う上で、デジタルの必要性が学年全体に浸透していることが伺えた。

課題としては、生徒のモチベーションを継続できない点である。講座を通して、課題研究の順序に沿って進めているが、このルートを示していることで自由度が減り、思い切った課題研究が行えていないグループが多い。生徒の活動と講座の時期を再考し、生徒が自ら学ぼうとする雰囲気をつくり、ウイットに富む研究が多数生み出されるように計画していきたい。